

まちだ丘の上病院とヨリドコ小野路宿が地域の皆様にお届けする健康情報

ヨリドコ新聞

2025年1月
Vol.22



「新年のご挨拶」

謹んで新春のお喜びを申し上げます。皆さまにとりまして、希望に満ちた一年の始まりとなりますことを心よりお祈り申し上げます。

まちだ丘の上病院（以下「まちおか」といふ。）は、昨年12月に7周年を迎えました。何も地域とつながっていなかった病院が少しずつ地域と手をつないで、歩み始めることができたことは、地域の皆さまの支えがあつてこそだと実感しております。本当にありがとうございます。



昨年のまちおか

2024年のまちおかは、地域や地域に暮らす人々の声を聴くためのサービステキ強化を模索してきた一年でした。7月からは障害児者の相談支援事業を増員し、9月には居宅介護支援事業所ココ・ヨリドコを

開設しました。地域の皆さまの医療や介護の悩みを伺いながら、2024年度はさらにサービスの内容を充実させてきました。



それから、ヨリドコ小野路宿もオープンから丸3年を迎え、年間1万人以上の方が様々なきつかけとしてヨリドコを利用してもらえるような、そんな「あるといいながあるところ。」に育ち始めました。ヨリドコやまちおかを通じて、少しずつですが地域の中に必要な医療が溶け込みはじめたと感じられる物語がうまれつつあります。

これからの展望

2025年のまちおかは、これまで取り組んできたことを大切にしながらも、新しいことに取り組んでいける1年間にしていきたいと考えております。具体的には、さら



に地域の暮らしにとって必要な「かかりつけ医」となれるような外来を定着させ、在宅医療・介護のサービステキなどもさらに充実させていきたいと考えております。ヨリドコ小野路宿においても、たくさん「やりたい気持ち」の背中を押していきたいと思っております。

一般財団法人ひふみ会
代表理事 藤井 雅巳



リハビリについて

新年あけましておめでとうございます。
今年初めのテーマは、まちだ丘の上病院リハビリテーション科よりリハビリテーションに関わる職種や当院でのリハビリテーションについてお伝えします。

・理学療法士

ケガや病気などで身体に障害のある人や障害の発生が予測される人に対して、基本動作能力の回復や維持、および障害の悪化の予防を目的に、運動療法や物理療法を用いて、自立した日常生活が送れるように支援する医学的リハビリテーションの専門職です。加えて、福祉用具の選定や住宅改修などの環境調整、生活習慣病等の予防も理学療法の対象とされています。

・作業療法士

食べたり、入浴したり、遊んだり、買い物をしたり、料理をしたり、人の日常生活に関わるすべての活動を「作業」と呼びます。障害などによって、それらを行うことが難しくなっている人を対象に、作業療法士がリハビリテーションのプログラムをつくり、「作業」そのものの練習や、心身の機能の回

復や維持の手段として「作業」を行ったりします。

・言語聴覚士

ことばによるコミュニケーションに問題がある方に専門的サービスを提供し、自分らしい生活を構築できるように支援する専門職です。摂食・嚥下の問題にも対応します。また様々な領域で、コミュニケーションの面から豊かな生活が送れるよう、ことばや聴こえに問題を持つ方とご家族を支援します。

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士はそれぞれ専門分野があり、互いに協力して患者様にリハビリテーションを提供しています。

当院のリハビリ

当院では主に入院患者様、一三三学園の園生や短期入所の利用者様、外来患者様にリハビリテーションを提供しています。通常の療養型病院と比較して、リハビリテーションスタッフの数が多くことが当院の特徴です。理学療法士は常勤4名と非常勤3名、作業療法士は常勤1名、言語聴覚士は常勤2名と非常勤1名が在籍しています。

(2025年1月1日現在)

入院患者様はご自宅や施設への退院を目標とされる方や、当院で最期を迎えられる方がいらっしやいます。全ての患者様に対して医師、病棟スタッフ、リハビリテーションスタッフが協力し「あなたらしい」生き方ができるようにサービスを提供しています。

一三三学園の園生は当院での生活歴が長く今後も当院が生活の場となります。そのため現状の課題だけでなく今後の生活を見据えたりリハビリテーションを行っています。また機能訓練だけでなく園生にとって楽しみになる活動の提供もしています。

外来患者様は障がいのあるお子さんや成人、腰痛などの整形外科疾患のある方など様々です。「歩くと膝が痛くなる」「転びそうになることが増えた」などお体の困りごとがありましたら、まずはお気軽に当院までご相談ください。



リハビリテーション室